

# 冷凍自動倉庫を増強

武蔵野ロジ  
埼玉センター 関連マテハン機器も

【埼玉】武蔵野ロジステイクス(渡辺雅之社長、本社敷地内に構える埼玉県三芳町)は昨春、埼玉物流センターの大幅な増築工事を終えたばかりだが、3月中旬にも再度、設備を増強する。食品卸や外食産業向けのサイドパーティールロジステイクス(3PL)事業が順調に推移しており、早ければ2012年3月期には売上高100億円達成も視野に入れている。

昨春の増築で、センターの延べ床面積が6500平方メートルに拡充され、自社初となる冷凍自動倉庫を導入したことで、収容能力はそれまでと比べて倍増している。今回は、2基目となる冷凍自動倉庫(450パレット収容)の導入および関連マテハン機器の設備を投資する。

からは同社の埼玉物流センターで全面受注することが決定。今回の施設増強はこ

首都圏向けの物流センターとして利用が決まったことが、昨春の増築要因の大半を占めていた。この1年間は同センターでのウエートが6割で、4割は神奈川県内にある同業他社のセンターを利用してしたが、4月

のためである。首都圏での低温物流の強化を進める同社は、埼玉、神奈川、千葉に続いて、昨秋からは東京でも物流センターが本格稼働。これにより、売上高は右肩上がりを見守り、10年3月期の82億円から、11年3月期では

92億7000万円と2けた以上の増収を見込む。渡辺社長は「新年度からは食品卸の新規取引が始まる予定もあり、徐々に裾野は拡大しており、今後、売り上げは伸びるものとみられる。しかし、コンビニ業界などの再編から店舗のス

クラブ・アンド・ビルドが進み、総体的に運送費が低下する傾向になってくる。質とともに量も確保することが課題となる」と述べ、周辺の新規荷主の獲得が力ギとなることを示唆している。

(谷本 博)